

考古学総合実習

選択 2単位

阿部 朝衛・畑 大介・榎原 功一・
高木 暢亮

1. 授業の概要(ねらい)

考古学においては、研究目的の設定後、遺跡の発掘調査および成果の公開・活用を適切に行わなければならない。具体的には、遺跡探索・踏査、地形観察・測量、発掘調査、次いで調査資料の整理・分析、検討結果の公表という過程が含まれ、これらの過程では様々な実践的知識と技術が必要となる。そこで、今年度は山梨県内で古代に関する遺跡の発掘調査、室内整理を実施し、発掘調査および整理作業にかかわる知識・技術を学ぶ。

2. 授業の到達目標

1. 発掘調査の準備、開始から終了までの手順、法的手続きを理解し、マネジメント能力を養う。
2. 実習を通して具体的発掘方法、遺物の取り上げ方法、図面作成方法、測量器具操作方法、写真撮影方法の基礎的技能を修得する。
3. 出土した遺物の洗浄、注記、接合、図化作業を行う。

3. 成績評価の方法および基準

夏期の発掘調査に約1週間参加し、発掘にかかわる具体的作業を行うことによって評価する。

4. 教科書・参考文献

参考文献
文化庁文化財部記念物課監修 『発掘調査のてびき』 同成社
『考古学調査・研究ハンドブック』 1～3 雄山閣

5. 準備学修の内容

対象とする遺跡あるいは時代の研究概要を事前に把握し、調査後は結果に関する検討、整理作業を行なうほか、多様な器材の取り扱い、準備、片付け、および実習前後の研究会等に積極的に参加すること。

6. その他履修上の注意事項

発掘実習前の説明会・準備会、および調査後の資料整理・研究会等に積極的に参加することを望む。それによって、発掘にかかわる技術だけではなく、考古学における研究・調査方法の概要を知り、法的手続きを含めた文化財マネジメントに関する知識の重要性を理解してほしい。

7. 授業内容

合宿しての集中実習であるので、以下に項目だけをあげる。

1. 遺跡周辺の踏査と測量器具を使つての発掘区設定
2. スコップ、移植コテ、竹べら、手ぼうきなどの操作とその手順
3. 遺構・遺物の写真撮影
4. 遺構・遺物の平面図作成・測量器具の取り扱い
5. 地層断面図作成
6. 遺物の取り上げ・収納
7. 文化財保護法に関する手続き